



令和7年12月4日発行

学校だより

第15号

江戸川区立松江第三中学校

＜教育目標＞

- 1 素直で明るい、心豊かな生徒を育てる
- 2 自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる
- 3 責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる

いろんなところで気づかされる?!…

校長 小澤 託

11月に行われたデフリンピック、観に行ってきました!! 競技の開催場所が近い学校は観に行ったり、学年の行事として応援に行ったりしたところもあったようです。個人的には柔道を観戦しに行きたかったのですが、会場の関係で入場制限がかかったり、入場待ちのお客さんの列ができていたりするのをテレビで見て、別な競技を観戦しに行きました。

私が観戦に行ったのは東京アクアティクスセンターで開催された水泳でした。選手のスピードは、まさに世界の大会ということもあり、普通に速い!!(生で観ると本当に速いです!!)そして、余計な脂肪がそぎ落とされ、鍛え抜かれた筋骨隆々の体は、美術の教科書に載っている彫刻のよう。耳が聞こえない(聞こえづらい)ようには思えないくらいスタートの反応はいいし、とてもハンデがあるようには思えませんでした。

今回のデフリンピック。選手の皆さんのが活躍はもとより、観客数が想定の3倍の28万人に達したことや手話を元にしたサインエールで会場が一つになり盛り上がったことなど、様々な報道がなされました。ちょっと話がそれますが、大相撲にも生まれつき難聴の「爽(さわやか)」という力士もいて、そちらも話題になっているらしい。

もし、音がない世界が普通で、耳が聞こえるの私だけだったら、どうなってしまうんだろう…と逆の世界をふと考えてしまいました。伝わらない不自由さや伝えられないもどかしさでイライラしたり、自分の意志を聞いてくれる人を捕まえて懸命に伝えようとしたり、聞いてくれる人に心の奥底から感謝するんだろうなあ、などと思ってしまいました。デフリンピックに出場している選手だけではなく、様々なハンデを持っている方は、そういう“生きづらさ”を感じながら、生活しているということを理解しなければ、と改めて反省してしまいました。

観戦後の帰りの道中…

大きなトラックが行き交う交通量の多い道路の横断歩道で、目の不自由な白杖をついた方が、信号が変わるのを待っておりました。青に信号が変わったので、“信号が変わりましたよ”と声をかけましたが、“駅までご一緒しましょうか?”と言えなかった私がおりました…。“情けないなあ”と下を向いて、後ろからその方を見守っていたつもりでしたが、点字ブロックと白杖を頼りにスタスタと歩くそのスピードとたくましさに、逆に“もっとしっかりしてくださいね!”と言われた気がしました。

“どんな状況であれ、前を向き、力強く自らの道を歩む” 様々なことを気づかされた一日でした。

さらに…

電車の中で、大きな声で会話をしていた今どきの女子高生。周りから見たら、ちよとうるさいなあ、と思うくらいの声量で話していたのですが、途中の駅で友達が降りました瞬間、カバンをゴソゴソし始めました。出てきたのは参考書。空いた席に座って、イヤホンをして、一気に集中モード。この切り替えの早さは見習うべき?!

自分の夢に向かって頑張っている若者からも気づかされました。

～ 今一度 みんなで確認しよう！ ～

12月に入り、街中では聞こえてくる音楽がクリスマスの曲だったり、テレビをつけると1年を振り返ってという特番だったり、意識しなくても年末を意識させる雰囲気になってきます。学校の中では12月というと、今行われている三者面談や通知表などが大体の方の頭の中ではイメージされるのではないでしょうか。

個人的には、1年の汚れを落として新年を迎える年末の大掃除、が来てしまします。

校舎内を見てまわったり、他の学校にお邪魔にした時に、廊下をはじめ生徒が過ごす教室や生徒用トイレを見たりします。生活している場所を見ると、そこで生活している人たちの心が分かる、なんて言われます。そういう中で、時々悲しくなる時があります(ちょっとしたことなんですが…).ゴミが落ちていたり、机の上にプリントが散乱していたり、掲示物が傾いていたり、机が整然と並んでいなかったり…。

人はどんな環境にもやがては慣れてきます。良くも悪くもそれが当たり前になります。乱れた環境の中で生活していれば、それが普通になるし、心もどんどんすさんでしまい、モラルも低下してしまいます。

松江三中ができるないから言うわけではありませんが、身の回りの整理整頓をする、掃除をする、服装や身だしなみを整える、2学期が終わる（1年が終わる）この時期だからこそ、今一度、みんなで確認しませんか？

なぜなら

“環境が人をつくり その環境は人がつくる！！”

ものだから…

【三者面談ありがとうございます】

12月1日(月)から全学年で三者面談を実施しております。

保護者の皆様におかれましては、お忙しい中、時間の都合をつけ、ご来校いただき感謝しております。ありがとうございます。限られた時間の中ではございますが、保護者の皆様にお子様のご家庭での様子を伺いながら、学校の様子をお伝えできることは非常に貴重な機会だと思っております。

学校では見ることのできないつろいだ姿と家庭では見せない学校の顔というものを生徒の誰もが持っています。保護者の皆様も小さい頃そうであったように、生徒たちもそうやって生活しています。もちろん、教員である私たちだってそうでした…。

特に情報が飛び交い、社会の動きが急速に変わっていく世の中になっているからこそ、家庭と学校が力を合わせて将来あるお子様(生徒)を育てることが求められていると思います。両方でお子様(生徒)を様々な場面で認め、良い部分をさらに伸ばし、社会で生き抜く自信を付けさせることができだと感じております。何か心配な点やお悩みのことなどありましたら、面談のあるなしに関わらずご相談いただければ幸いです。また、学校からも何かありましたらご連絡をさせていただくと思います。今後もどうぞよろしくお願いいいたします。

日常の思わずニコッとしてしまうひと時

学校にはたくさんの樹木が植えられています。四季折々に見ることのできる花や木々の姿は心を癒してくれます。ただ、秋から冬にかけて、その木々がもたらす落ち葉は尋常ではありません。毎日主事さんたちが掃き集めていますが、大変な量です。登下校の際に、その落ち葉を拾ってくれる生徒が多いこと、うれしく思います。さりげなく、落ち葉を拾ったり、ごみを拾ったり、誰かを支える人って素敵だと思います。